

〇はじめに

遊びは、子どもの「やりたい!」という気持ちに基づいた体験です。遊びの中で子どもたちは、挑戦したり、協力したり、ぶつかり合ったり、達成したり、とさまざまな体験をします。自由で豊かな遊び体験があることで、子どもは創造性や集中力、社会性や自己肯定感など、生きていく上で必要なさまざまな学びを得ていきます。

公園は、子どもたちに一番身近な野外の遊び場。午前中は乳幼児連れの親子でにぎわい、午後は幼稚園帰りの子どもと親たち、そして放課後は小中学生と、一日を通して幅広い世代の地域の子どもの遊び場となります。と同時に親たちにとっての情報交換の場、近所の人やシニアも含め地域のさまざまな世代が集い過ごせるコミュニティ拠点、そして地域の防災拠点など、公園は地域資源としてもさまざまな可能性を秘めています。

しかし公園をとりまく課題は多く、周囲からの苦情に対応し安全性や管理を重視する中で、子どもたちの体験を広げる遊びの要素は削り取られ

る傾向があります。そして高津区内の子育てに関する調査データを見ると、これらの事情を裏付けるかのように、区内に約 130ヶ所の公園があるにもかかわらず、「野外の遊び場」に対するニーズはとて高くなっているのです。

宅地開発によって身近な場から“遊んでいい自然”が失われ、放課後の“時間”“空間”“仲間”が消えたと言われる今、外遊びを通じた子ども同士の交流は減少し、部屋でゲーム機相手に遊ぶ子どもが増えています。

「子どもたちが安心して遊ぶことのできる場」「自分で遊びを作り出すことのできる場」「親や大人が子どもを介してつながり、地域のコミュニティをはぐくむことのできる場」。ほんの少し前までは確かにあった、そんな遊び場をもう一度取り戻したい。私たちかわさき遊び場ネットでは、まちの中で子どもがのびのび遊べる場を増やしていくために、公園を有効に活用していくための資料となるよう、高津区内の公園を区と協働して調査し、現状のデータをまとめました。

<かわさき遊び場ネットとは?>

かわさき遊び場ネットは、川崎市内で遊び場づくりにかかわっている人たち、遊び場に関心のある人たちのネットワーク。都市化が進み、“遊んでいい自然”が子どものまわりから消えようとしている今、つながりあい、一緒に考えていくことで、遊び場を通して地域コミュニティの“輪”を広げていこうと、平成16年に発足しました。子どもたちがもっと自由に遊べる場、ありのままにいられる場を地域の中に広げていきたいと活動しています。

○公園調査活動

<評価基準と調査項目>

「安心して遊べる場」「自分で遊びを作り出せる場」「地域コミュニティをはぐくめる場」として活用するための基礎データを集めるにはどのような評価基準を設けるべきなのか。事前調査を行ったり、過去の公園調査データを分析したり、ワークショップを開いたりして、子育て世代や公園利用者の声を広く取り入れました。また公園事務所も交えて数回話し合いを持ち、最終的に6つの要素を軸に調査項目を決定しました。(下図調査票参照)

<調査の概要>

●調査対象：

高津区内の過去の公園調査結果を分析した結果、子どもたちの遊び場が市の管理する公園だけではないこと

が分かりました。そこで地域の遊び場を網羅するため、住宅の提供公園や団地内の公園、緑地や緑道なども含めた公園緑地の中から、利用対象が限定されるマンションのプレイロットや立ち入りが前提とされていない緑地を除き、131ヶ所の公園を調査対象としました。

公園事務所の管理している高津区内の街区公園・近隣公園にプラスして、緑道、図書館前の溝口緑地、ふれあいの森、KSP内の広場、緑が丘霊園内の公園、県営団地内の公園を含みます。

●調査方法：

遊び場ネットのメンバーが複数人で公園を訪れ、チェックシートへの記入、写真の撮影、見取り図の記入を行いました。また利用者の声もできるだけ聞きとり、調査票に反映させました。

●調査実施期間：

H21年9月17日～H21年11月30日

※その後追加調査を行った公園もあります

<調査結果のまとめ>

A. 調査項目をもとに、6つの要素を点数化して公園ごとにかたちに表しました。またそれぞれの公園について、管理状況や調査時の利用人数、気付いたこと、もっと活用するための提案をまとめました。

(→巻末の公園資料ページを参照)

B. 子どもたちの日常の行動範囲を考慮して、公園の現状を各小学校区ごとに把握し、さらにメンバー間で分析・検討してまとめました。各小学校区ごとの地図(p3～p32)には、以下のことを記しましたので参照してください。

- ①すべての公園について、その名前と位置
- ②「創造性」・「安心感」・「コミュニティ」の要素があるかどうか(個別の調査のそれぞれの評価点数が3以上の場合を「あり」、2以下の場合を「なし」とした)
- ③「安心感」がなく対策の必要な公園を「危険箇所」(Ⓛ)としてマーク
- ④学区の中で遊び場として重要な役割を果たす公園を「重点公園」(Ⓜ)としてマーク
- ⑤小学校区ごとの遊び場についての分析と課題

※各小学校の児童数(参考)は平成21年度実績です。

調査票

<コミュニティ>	2点
ベンチがある	<input type="checkbox"/>
テーブルがある	<input checked="" type="checkbox"/>
日陰がある	<input type="checkbox"/>
掲示板がある	<input checked="" type="checkbox"/>
子ども達を見守る大人が居る	<input checked="" type="checkbox"/>
生活に根ざした遊びが体験できる	<input checked="" type="checkbox"/>
雨宿りできる場所がある	<input type="checkbox"/> あずまやがある
地域の人が入力している畑や花壇がある	<input checked="" type="checkbox"/>
イベントがよく開かれる	<input checked="" type="checkbox"/>
人と人のつながりを感じる	<input checked="" type="checkbox"/>
<安心感>	4点
明るい	<input type="checkbox"/>
人目がある(外からの)	<input type="checkbox"/> マンションのベランダ側
植栽が適切に配置されている	<input checked="" type="checkbox"/> チャドクガがいるサザンカは不要?
よく使われている	<input type="checkbox"/> 保育園の利用+小学生
通り道として利用できる	<input type="checkbox"/>
遊具スペースと広場スペースに分かれている	<input type="checkbox"/>
車の往來の多いところでは入り口などに対策がある	<input type="checkbox"/>
ゴミが散乱していない	<input type="checkbox"/>
壊れたままになっている遊具がない	<input type="checkbox"/>
路上駐車がない	<input checked="" type="checkbox"/>
街灯がある	<input type="checkbox"/>
<公園の魅力>	3点
四季を感じる自然がある	<input type="checkbox"/> サクラ、ツツジ、アジサイ
せせらぎや池がある	<input checked="" type="checkbox"/>
砂場が清潔で使いやすい	<input type="checkbox"/> 落ち葉が混ざり、あまり使われていない
ボール遊びが出来るスペースがある	<input type="checkbox"/>
よく子ども達が利用している	<input type="checkbox"/>
バスケットボールなどを使った遊びのスペースがある	<input checked="" type="checkbox"/>
<創造性>	3点
遊びの素材となる木や土、水がある	<input checked="" type="checkbox"/>
木の実や草花、虫など遊べる自然がある	<input type="checkbox"/> ヤマモモ、サクラ
ダスト舗装されていない部分がある	<input checked="" type="checkbox"/>
地面に起伏がある	<input checked="" type="checkbox"/>
冒険的な遊びが体験出来る	<input checked="" type="checkbox"/>
遊び心を刺激する要素がある	<input type="checkbox"/> 砂場のヘリや斜面部分
<利便性>	2点
利用しやすい場所にある	<input type="checkbox"/> マンション脇にある
ベビーカーを押したまま移動できる	<input type="checkbox"/>
トイレがある	<input checked="" type="checkbox"/>
水道がある	<input type="checkbox"/>
時計がある	<input checked="" type="checkbox"/>
駐車スペースがある	<input checked="" type="checkbox"/>
<広さ>	4点
面積	～400 ～800 ～2500 ～10000 10001～ (1,213㎡)